

### Ⅲ 人文地理における学習過程の比較研究

高 森 充

#### 1. この研究のねらいと方法

「課題解決学習」とは何か、及びこの研究の一般的ねらいについては、総論に述べられている。この課題解決学習の具体的な姿を明らかにし、その学習成果を検討することがこの研究のねらいである。ここでは特に高校における人文地理の課題解決学習と系統学習の比較研究をまとめたものである。

ここでの研究のねらいと方法について簡単にまとめれば次のようになる。

- (i), 人文地理の課題解決の指導案をどう立てたか、系統学習のそれとどう違うか。(高1, 人地 〓日本の農業〓の単元を例として)
- (ii), 課題解決の学習過程は系統学習との対比において、どうか。(指導の特徴, 生徒の動き, 教室のムード等について)
- (iii), 学習成果の上でどんな違いがあるか。(知識・理解の点で, 思考態度の点で)

(iv), 全体として, 課題解決学習は有効か, 又, どんな問題点があるか。

次にこの研究の方法と被験者の状況は,

- (a), 場所, 名大附属高校1年A組(49名)とB組(49名)のホーム教室
- (b), 日時, A組(系統学習), B組(課題解決学習)として, 単元「日本の農業」について, 10月12日~19日に至る社会科の時間, 各3時間
- (c), 授業者, 高森 充

学級編成については, 附属中学(完全抽選による採用)よりの進学者74名と外部よりの入学者14名の計88名を, A・B両組に機械的に配分したものである。しかし平常の学級のムードはA組がやや活潑であり, B組が, むしろおとなしい。

#### 2. 指導案と学習過程について

系統学習方式をA案, 課題解決学習方式をB案として示すと次のようである。

高1 人文地理 単元 〓日本の農業〓 A 案 (系統学習方式)

| 学 習 過 程  | 学習指導の観点と指導法  | 資 料   | 備 考           |
|--|--|---|---------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◦日本の食糧問題                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦7年続きの豊作</li> <li>◦最近の食糧事情</li> </ul> </li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦新聞記事を読んで説明</li> </ul>  |   | 導 入<br>(20分)  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 農民の努力…日本の農業の発展                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦耕地のふえ方と食糧のふえ方(明治以後)</li> <li>◦農業技術の発展</li> <li>◦土地利用の特色</li> <li>◦農地改革の成果と問題</li> </ul> </li> <li>2. 水田中心の労働集約的多肥農業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦農家の経営規模</li> </ul> </li> <li>◦日本農業の土地生産性と労働生産性</li> <li>◦米作について(その自然的社会的条件)</li> <li>3. 多角的な土地利用と副業的な農業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>◦農業経営のいろいろなタイプ</li> <li>◦土地利用, 副業的農業の地域的な代表例</li> <li>水田単作</li> <li>二毛作(裏作の種類)</li> <li>養蚕, 乳牛, 果実, 野菜(近郊と遠郊)</li> <li>たばこ, その他</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦具体例を中心に, 農業技術の発展の成果をわからせる。</li> <li>◦簡単にまとめる。</li> <li>◦資料を中心に説明と質問。</li> <li>◦どんな副業があるか。</li> <li>◦信州の例(新聞記事から教師の説明)</li> <li>◦これらの取り入れ方は地域によってどう違うか。</li> <li>◦教科書の説明を中心に質問と応答。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◦教科書の表</li> <li>◦プリント, 農地改革前後の土地関係</li> <li>◦教科書の図表の外プリントの図表</li> <li>1. 各国の土地生産性</li> <li>2. 肥料使用状況</li> <li>3. 地域別経営面積</li> <li>4. 農機具使用状況</li> <li>5. 教科書を中心に「農業地域区分図」</li> </ul> | 展 開<br>(110分) |

教科共同研究

|   |   |  |                     |
|---|---|--|---------------------|
| <p>4.日本の農業地域区分<br/>                 (1)北海道東部 えん麦, 畜産地域<br/>                 (2)北海道西部 大豆, じゃがいも地域<br/>                 (3)東北, 北陸水稲単作地域<br/>                 (4)中央高地養蚕地域<br/>                 (5)東海, 南海多毛作地域<br/>                 (9)西南日本, 水稲, 野菜, 畜産地域</p> | <p>◦北から順次資料を参考に説明。</p>                          |  | <p>総括<br/>(30分)</p> |
| <p>◦現在の日本農業がもつ問題<br/>                 1.農業経済の問題<br/>                 2.農業の後進性(農工格差)<br/>                 3.農業政策</p>   | <p>◦教師の発問—応答—<br/>                 ◦教師のまとめ。</p> |  | <p>導入<br/>(30分)</p> |

高1 人文地理 単元 『日本の農業』 B 案 (課題解決学習方式)

| 学 習 過 程  | 学習指導の観点と指導法  | 資 料   | 備 考                  |
|--|--|---|----------------------|
| <p>◦今の農村はどんな問題をもっているか。<br/>                 イ.米価が安い。豊作と米価<br/>                 ロ.耕地が狭い。働きがづらい。<br/>                 ハ.農産物価格の不安定。農工シェーレ<br/>                 ニ.生活が苦しい。農工所得格差<br/>                 ホ.百姓をするのがいやだ。町へ出たい。<br/>                 ◦日本農業の問題点と課題→どのように研究したらよいか。</p>  | <p>◦レポート「農民の訴える声」について発表させる。<br/>                 ◦発表をまとめつつ当面する農業問題を整理する。<br/><br/>                 ◦研究法の話し合い。<br/>                 (学習の見通しと方向の枠づけ)</p>   | <p>◦長野県地方聴問会での農民の声(5.23朝日)<br/><br/>                 ◦プリント<br/>                 『農民の職業意識』</p>   | <p>導入<br/>(30分)</p>  |
| <p>1.日本農業の社会経済的背景<br/>                 イ.踏み台にされた農村(明治以後の簡単な歩み)<br/>                 ロ.農業技術の発展と土地利用(自然への働きかけと社会生活での苦闘)<br/>                 2.日本農業の構造と特色<br/>                 ◦日本経済にしめる役割<br/>                 特色イ.米作中心農業 } これを基礎とする多角的土地利用と副業<br/>                 ロ.集約過少農 }<br/>                 ハ.低所得と格差 }<br/>                 ニ.工業発展への踏み台 }<br/>                 3.農業経営のいろいろと農業地域<br/>                 イ.畜産, 混合農業 北海道<br/>                 新しい開発<br/>                 ロ.水田単作=冬期,内職,出稼ぎ}東北北陸<br/>                 ハ.米作-養蚕-果樹,酪農移行}→中央高地<br/>                 ニ.高度集約, 多角的副業 }→東海, 関西<br/><br/>                 ホ.米作, 野菜, 畜産 }西南<br/>                 ◦地域差の出てくる理由</p> | <p>◦史的発展の大きなプロセスを理解する。<br/><br/>                 ◦例をあげて苦闘する姿を実感的にとらえさせる。<br/><br/>                 ◦日本農業の全体的な特色をわからせる。<br/>                 ◦どんな副業形態があるか, 地域によってその取り入れ方はどんな特色があるか(レポートを書かせる)<br/>                 ◦レポートによる地域の例を発表させながらまとめる。<br/>                 ◦特に, 中央高地, 東海地方の例を重点に扱う。<br/>                 ◦地域的課題と日本農業の全体的な課題の特殊性と共通点をつかませる。</p> | <p>◦プリント 農地改革前後の土地関係<br/>                 ◦プリント 冷害と藤坂5号<br/>                 ◦教科書の図表の外プリントの図表<br/>                 1.各国の土地生産性<br/>                 2.肥料使用状況<br/>                 3.地域別経営面積<br/>                 4.産業別人口と所得<br/><br/>                 ◦日本農業風土記</p> | <p>展開<br/>(100分)</p> |
| <p>◦今後の日本農業の生きる道<br/>                 予想される柱<br/>                 ◦技術的改良の問題<br/>                 ◦農家経営の近代化の問題<br/>                 ◦農民のうごき<br/>                 ◦政府の農業政策をどうみるか。</p>  | <p>◦具体的な問題を中心として生徒の意見発表—討論—教師の補足</p>   | <p>◦プリント<br/>                 ◦新聞(朝日)<br/>                 『もの言う農民』</p>   | <p>発展<br/>(30分)</p>  |

まず、A案(系統学習)については次のようなものを系統と考えた。即ち人文地理における基本的原則として、人間が自然に働きかけ、自然のもつ可能性を開発していくプロセスとして、日本農業の発展を農民の努力＝自然と社会への働きかけとしてとらえる。それが日本の気候、風土の中で特に米作中心の労働集約的多肥農業として特徴づけられ、しかも、米作だけで生活を維持できないことから、多角的な土地利用と副業的農業として具体化し、それらの取り入れ方が、日本の各地域の農業経営にどう現われるかという学習の方向がとられた。この様な系統をふまえながら各地域を関連づけ、全体として日本農業の構造を理解させることに主眼をおいた。

授業のすすめ方としては、教科書を中心にプリント資料、地図を十分に活用し、教師の説明や発問を中心にしたものを考えた。

課題解決学習については、導入に就いてA案より10分多く時間をかけ、あらかじめ「農民の訴える声」についてレポートを書かせておき、これを発表させながら→即ち、生徒をして、日本農業の現在の問題について、考えさせながら、同時にこれを客観的な日本農業の課題＝日本経済社会に占める農業の位置・役割として整理して、学習の枠づけ方向づけを考えた。これを受けて、学習の展開においては、日本農業問題の史的背景を重点的に、しかも出来るだけ生き生きした資料をあげながら考えさせ、日本農業の構造的特色的理解に進む。従って地域的特色(農業経営のいろいろと農業地域)についても、史的発展のプロセスを重視しながら、地域差の出てくる理由をただ自然条件の差異によるものといったような誤った理解に導かないように計画した。終りに、系統学習における総括に代って、課題の発展的思考(安易な解決をいましめながら)に力を入れ、「今後の日本農業の生きる道」について、プリント資料「もの言う農民」をもとに生徒の意見発表→討論→教師の補足をしてまとめた。

指導上の特徴としては、A案にくらべて、新聞記事等から生き生きした資料を多くとり入れた。特につぎの時間に取扱うことについては、時間の終りによく確認しあい、レポートの形で予め簡単にまとめてくるように宿題を課した。授業は生徒の発言、発表を生かしながら教師が補足して発展させる形をとった。

課題解決学習では以上のような取扱いによって、「生きるための苦闘」(踏み台にされた農村の中で自然と闘い、社会と闘う)農民の姿を生徒自身もその立場に立って、リアルに把えさせようとつとめた。

授業については、時間的に指導案をほとんどそのま

ま実現し得たといえる。取り扱った内容については、若干の変動はあったが指導案と基本的に変わっていない。

問題は生徒の反応、教室のムードについての違いである。B組については普段、A組にくらべてはるかに不活潑であり、発言も少ないクラスである。しかし、この課題解決学習に当っては生徒の反応、教室のムードはかなりはっきりした違いが生れた。B組については意識的にも指導の重点を生徒の動きを活発にし、生きるための苦闘を営んできた農民の生活を支柱とし、それに少しでも実感的に近づけようとした。だから学習のタイプは基本的には教師が中心になっているが、生徒の動きは生き生きとし、 $T-P_1-T-P_2$ という流れが比較的連続的にとられた。しかもこの際のPは普段余り挙手発言をしない生徒も発言し、 $P_1-T$ 、 $P_2-T$ 、 $P-A.P$ という形もかなり多かった。

A組(系統学習)については普段と余り変わりなく、発言は割合積極的であるが、いつも発言する生徒に集中していた。

### 3. テストと結果の分析

単元終了後(1週間後)、両組一斉にテストを行った。テスト問題は次にあげた通りであるが、問題1、2は知識について、1、は日本農業の全体についての基礎的知識について問うものであり、2、は地域的特色について問うたものである。3、は米作を中心として地図を見て考察する「理解の程度」を試みた。4、は一種の Problem Situation Tests として考え方及び態度を見るものである。なお、問題2、及び3は入試問題の中から一部改作して出題し、なるべく教授者の好みによる出題の偏りを避けようと努めた。

#### テスト ○日本の農業について

1. 次の文の( )内に当てはまる最も適当なものを下から選んでその符号を解答欄に入れよ。

わが国では、国土の16%に満たない農地が各地に分散している。国民の約(イ)を占める農民が、この耕地を耕しているので、1農家の経営規模は平均わずかに(ロ)反歩程度であり、しかも全農家の約40%は(ハ)反未満の零細な農家である。農地改革によって、農地の90%が(ニ)となったが、著しい人口増加のために、労力をおしみなく使い、肥料を多く用いて、一定面積から少しでも多くの養糧を収穫するよう努めている。

- a, 1 b, 3 c, 5 d, 7 e, 9 f, 1/4  
g, 1/2 h, 1/3 i, 1/3 j, 山林 k, 小作地

1, 自作地 m, 原野

問—線の部分のような農業は何というか, 解答欄へ記入せよ。

2. 次の各文の( )内に下記の用語の中から最も適切なものを選んで符号で解答欄に入れよ。

(a) (1)の諸盆地には(2)が発達しており, これらを開拓した畑地には(3)がうえられて, 養蚕地帯の中心をなし, かつ(4)業がさかんであったしかし養蚕の衰退とともにそれは(5)工業に転換するものが多くなった。

(b) (1)には見事な(2)が分布しているが, これは(3)の開発と温暖な気候を利用したものである。

(c) (1)は昔から(2)が多いが, これは積雪地帯の(3)を利用したものだ。

(d) (1)では, りんごの栽培が盛んであるが, これは明治以後外国から輸入されたもので(2)の利用であり, これに対して(3)のみかん栽培は(4)の利用である。

(e) 名古屋周辺の農村には(1)が行われ, (2)な土地利用がみられる。

イ,扇状地 ロ,東海地方 ハ,集約的 ニ,粗放的  
ホ,温暖性 ヘ,西南日本 ト,冷涼性 チ,製糸  
リ,綿紡績 ヌ,桑園 ル農閑期 オ,洪積台地  
ワ,北陸地方 カ,茶園 ヨ,精密 タ,重化学  
レ,季節的出稼ぎ ソ,中央高地 ツ,東北日本  
ネ,近郊式農業 ナ,大農法

3. 米作はわが国農業の中核をなすものである。その増収をはかるために農家は県命の努力をしているが, その結果は反収にもあらわれている。次の図A

は昭和31年の都府県別平均反収を示したものであり, 図Bは昭和27年と昭和31年兩年次の都府県別平均反収との差を示したものである。以下の問について答を符号をもって解答欄に記入せよ。

(問1.) 図Aにおいて空白な県のうち5県に番号が付してある。番号のついている県はそれぞれ何県か。またその県の反収を下記の資料からえらび出し, 凡例とてらし合せて, その反収の階級符号を県の符号と共に記入せよ。

(問2) 図Bにより反収が著増した地域は次のうちどこにあたるか, 3地域をえらび出し, その符号を記せ。又, 主な減収の地域を1つえらび出せ。  
イ,九州 ロ,山陰 ハ,山陽 ニ,四国  
ホ,近畿 ヘ,北陸 ト,中央高地 チ,東海  
リ,関東 ヌ,東北

(問3) 次の文はわが国の米作について述べたものである。正しいものを○, まちがっているものを×として答を記入せよ。

A 米の反収は農家の経営規模の大きい地域で高まりつつある。

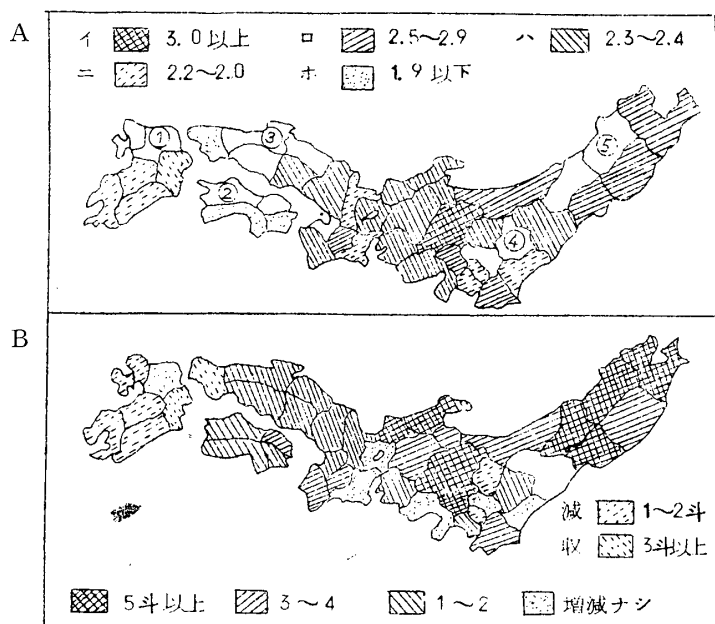
B 反収増加の著しい県は大体米の移出県にあっている。

C 水稻の二期作地域では反収増加が著しい。

D 水田単作地域での反収増大が目立ってきた。

E 水田二毛作地域では反収の増加はそう大きくはない。

(問4) 次にあげた各項のうち全国的にみて米作に有利な自然的条件と, 反収を高めさせてきた人文的社会的条件との符号を記せ。



- a 秋田 (2.7%)
- b 香川 (2.7%)
- c 福岡 (2.3%)
- d 鳥取 (2.3%)
- e 山形 (2.9%)
- f 愛媛 (2.4%)
- g 佐賀 (2.2%)
- h 島根 (2.0%)
- i 兵庫 (2.3%)
- j 神奈川 (2.2%)
- k 茨城 (2.2%)
- l 埼玉 (2.2%)
- m 宮城 (2.1%)
- n 栃木 (2.2%)
- o 広島 (2.3%)
- p 熊本 (2.3%)

社会科における学習過程の研究

い、積雪寒冷ろ、梅雨は、夏季日照多量  
に、台風ほ、砂質土壤へ、排水不良と、裏作  
ち、農家の兼業化り、保温折衷苗代  
ぬ、品質改良る、農地改革を、外国技術輸入

4. 次の文をよくよんで、あなたの意見を1, 2, 3  
の別にかかけ。

(1) この部落では農家100戸の内、農業に従事する  
20代の青年男子は3人しかいない。僕も高校を出  
るときには大学へ行きたかったが、おやじが「長  
男のお前を高校まで出したんだ、百姓やるのに大  
学なんかいかなくてよい」というのでやめたが、  
やっぱりあきらめきれない。  
どうしたらよいのだろう。

(2) 僕の村では740戸の農家があるが、最近  
は耕耘機もたいぶ入って70台余りも入っている。  
隣の家も今年になって1台入れた。僕の家では  
あいつ変らずだが、おやじに「おれの家でも…」  
と話したら「そんな金がどこにある」としから  
れた。「畑に西洋野菜でもうえて、もう少し収  
入を考えよう」といったら、「若いもんは楽を  
することはばかり考えている。そんなにうまく  
ゆくもんか」といったので、口論になってしま  
った。  
どうしたらよいのだろう。

(3) この間、村で村長選挙があった。A・B・C  
3人の立候補者があったが、投票日の数日前に  
部落の区長が年寄りを2人つれて、「部落とし  
てはBの人をおしたいから、よろしく」とい  
ってきた。僕が「誰を入れるかは個人の自由  
ではないか、そんなことを言うのは選挙違反  
ではないか」といったら「部落のためだ、た  
のむ!」と言われた。投票はCに入れた。  
どうしてわかったのか、近頃部落の人が僕  
のことを「危険人物だ」とうわさしている。  
どうしたらよいのだろう。

結果の分析

(1), 知識の定着度

主として1は日本農業の全体についての基礎的知識  
についての問題、2は日本農業の地域的特色について  
問うたものである。

分析結果は次の通りである。

1. 知識(全体)

| 点<br>クラス | 5/5 | 4/5 | 3/5 | 2/5 | 1/5 | 計  | 平均   |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|----|------|
| A        | 10  | 8   | 12  | 15  | 4   | 49 | 3.11 |
| B        | 9   | 10  | 13  | 13  | 4   | 49 | 3.14 |

2. 知識(地域)

| 点<br>クラス | 17/17 | 16/15 | 14/13 | 12/11 | 10/9 | 8 | 7以下 | 計 | 平均 |   |   |    |       |
|----------|-------|-------|-------|-------|------|---|-----|---|----|---|---|----|-------|
| A        | 4     | 2     | 4     | 10    | 5    | 5 | 6   | 4 | 2  | 4 | 3 | 49 | 12.45 |
| B        | 2     | 6     | 6     | 7     | 10   | 4 | 6   | 2 | 1  | 3 | 2 | 49 | 13.28 |

(注) 問題数を分母とし、分子は正答数である。数字  
は人数、平均点はクラス平均

問題1については両組ほとんど差はなく、2につ  
いて、ややB組がよいが、完全正解者( $\frac{17}{17}$ )がA組に多  
い、しかしむしろ準正解者( $\frac{16}{17}$ ), ( $\frac{15}{17}$ )がB組に多  
いことが注目される。

(2), 理解の程度

3. 理解(地図を見て考察)

| 点<br>クラス | 24/24 | 23 | 22 | 21 | 20 | 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10以下 | 計  | 平均    |
|----------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|-------|
| A        | 0     | 1  | 1  | 4  | 6  | 4  | 6  | 7  | 4  | 4  | 2  | 3  | 2  | 3  | 2    | 49 | 16.55 |
| B        | 0     | 2  | 3  | 5  | 4  | 5  | 6  | 5  | 7  | 2  | 3  | 1  | 2  | 2  | 2    | 49 | 16.93 |

ここでは、日本の米作を中心として、地図を見て考  
察する問題を提出した。問(1)から問(4)、まで、それ  
ぞれの問題が関連して把握され、地図における表現と  
その意味が理解されているかどうかについて試みた。

ここでもA, B両組について、2つのタイプによる  
授業の差はほとんどみられず、成績についての有意差  
はない。唯、(問3)のAについての誤答がA, B両  
組に多く、完全正答者がなかったことが注目される。

(1), 考え方及び態度の測定

前記の作文は、内容を1, 2, 3にわけて1つの  
Problem Situation Tests として示したものである。  
主として農村における労働、経営、政治の問題を特に  
古い世代と若い世代の対立の中で青年の生き方、考  
え方として問いかけたものである。

解答はすべて自由形式で書かせた。この問題のねら  
いは与えられた課題に対してどこまで Real な思考様  
式がとれるかにあった。

大都市の比較的環境にめぐまれて育った生徒たちの  
農村についての認識は、一般にきわめて甘く、表面的  
である。又、知識として理解しても、リアルな追求の  
態度は鈍く、後で示した例に見られるように皮相的乃  
至は現実飛躍的な批判が多い。

このような思考様式や態度は長期間、様々なファク  
ターの働きかけの中で形成されて来たものであり、学  
校教育以外の影響も強いと考えられる。従って、この  
ような思考、態度の形式を、短期に変えることはかなり  
無理があろう。しかし一定の事実をふまえて、内容  
を含んだ思考様式や態度を変えさせることは可能であ

り、これらの積み重ねを通じて、正しい＝リアルな社会認識と思考態度が形成されてゆくのではあるまいか。

所で生徒に自由形式で書かせた解答を、次の6つの類型にまとめてみた。

A, 親のいうようにすべきだ。しかたがないという道徳主義ないし現状肯定論, (例, 問1) ♪このままでいったらこの村はつぶれてしまうから、やっぱりお父さんのいったように農業に従事した方がよい♪ (女)

(問2の例) ♪耕耘機を買ってもよいが、金に余裕のない場合無理をしてまで買う必要はない♪ (女)

(3の例) ♪昔式の考えが残っていて、そのようになるのは仕方がないが、その内に都市などの影響で村が変ってきて村民も自覚してくれるようになる。今は村にしたがっていくべきである♪ (男)

B, 現状をとびこえた飛躍的解決ないし批判

(問1の例) ♪将来性のない農業ならば親がなんといおうと農業に従事する必要はない♪ ♪百姓が大学へ行かなくてもよいという考えは古い、農業関係の大学へ行ったらよい♪ (男)

(問2の例) ♪普通りの農業では収入も少ないし重労働であるから、割のよいものを生産して少しでも収入を多くして機械を入れて重労働をさける、頭をつかった農業をする♪ (男)

(問3の例) ♪村などで今でも古い考えが残っているようだが自分の思うままにすればよい♪ 周囲の人のことなんか気にしなくて自分の道を進んでいけばよい。「危険人物だ」といわれても勝手に言わせておけばよい♪ (男・女)

C, 現実に即したリアルな思考をとり、しかもその中から前向きな解決を求めようとする = Real Thinking—

(問1の例) ♪親の農業に従事させるという意見もわからないわけではないが、これからの農業には近代的な、より多くの収入を得るために農業技術の知識、共同経営の知識が必要であるから農大へ行けるように親とよく話し合うべきだ、どうしても無理ならば定時制の大学や、通信教育で農業をしながら勉強するとよい♪ (女)

(問2の例) ♪父とよく話し合っって新しい経営の仕方を取り入れるべきだ。又、自分から積極的に働いて、口論よりも実際の成果を示すとよい♪ ♪また耕耘機をもっていない家と相談して、共同購入(組合から長期資金の貸出を受けて)をし、共同使用の方法を考えるとよい♪

(問3の例) ♪部落の考えは間違っている。しかしそ

ういう間違った考えは仲々変れない(個人の力では)そこでねばり強く区長や村の人と話し合うべきだ。同時に青年会などで問題をとりあげていく♪ (男)

D, だから農村はダメだ、農村の人々は可哀そうだというセンチメンタリズム。

(問1, 3の例) ♪こういう事があるから農村に若い人がいなくなる♪ ♪全く馬鹿げた話だ、そんな村は出ていくべきだ♪ (男)

E, エライ人に親を説得してもらえ、法務局や裁判所へ訴えろ、という権威主義。

(問1, 3の例) ♪親せきの人か、村の有力者に頼んでガンコな父親をせっとくしてもらおうとよい♪ ♪選挙違反で訴えろとよい♪ (女, 男)

F, 無記

以上6つの類型による分析結果をまとめると次の表のようになる。

4. 考え方, 態度 A (系統)

| 型<br>問 | A  | B  | C  | D  | E  | F | 計  |
|--------|----|----|----|----|----|---|----|
| 1      | 7  | 12 | 9  | 17 | 12 | 2 | 49 |
| 2      | 8  | 13 | 17 | 9  | 1  | 1 | 49 |
| 3      | 3  | 14 | 18 | 4  | 8  | 2 | 49 |
| 計      | 18 | 39 | 44 | 30 | 21 | 5 |    |

- (注) 類型  
A 道徳主義  
B 飛躍的批判  
C Real Thinking  
D センチ  
E 権威主義  
F 無記

B (課題)

| 型<br>問 | A  | B  | C  | D  | E  | F | 計  |
|--------|----|----|----|----|----|---|----|
| 1      | 5  | 18 | 10 | 12 | 4  | 0 | 49 |
| 2      | 7  | 16 | 22 | 2  | 1  | 1 | 49 |
| 3      | 2  | 13 | 25 | 3  | 5  | 1 | 49 |
| 計      | 14 | 47 | 57 | 17 | 10 | 2 |    |

ここでまず両組を通じてB型(飛躍的批判)とC型(Real Thinking)が多いが、B組の(課題解決学習)によりC型が多い。しかし、同じようにB型(飛躍的批判)の余り望ましくないタイプもB組に多くなっているのは注目される。一般に高校生における社会を見る目は屢々高踏的批判、形式論的思考の欠陥が見られるが、これについてはこの研究においても克服できなかった問題である。ただA組に、D型(センチメンタリズム)とE型(権威主義)のタイプが多く、B組に比較的少ないのは、B組の方がより深く社会的背景を考え、事実即した思考態度を示しているといえよう。

おわりに

授業及びテスト結果におけるこのような両クラスの

違いを生み出したものは何か、その主な理由として、

- (1) B組には時間の前に、一定のテーマについてのレポートが宿題として課せられた。従って生徒は当日学習することについて相当の予備知識をもっており、又、レポートの簡単な報告に従ってまとめるという指導もとり入れた為、生徒の問題意識が学習内容とかなり密接に結びついた。
- (2) A組はプリント資料と教科書を中心とした。これに対しB組はこの他に新聞、雑誌の具体的な記事をとり入れたので、より現実的に理解したようである。
- (3) B組では第1限で生徒のレポートの発表を整理しながら、単元学習の主な順序、方向が一応全員のものとして確認されていた。

最後のテスト結果は別としても、課題解決学習でとりあげた事柄、即ち(1)、簡単なレポートを書くという形での予習、(2)、具体的な資料の採用、(3)、単元全体の方向づけというものは、所謂、系統学習や、講義中心の学習にも応用し得て、有効な指導法と考えられる。

以上1単元についての研究例から断定することは危険であるが、知識、理解を低下させることなしに、思考様式及び態度は1つの単元の中でも、事実即した内容的な面から変えることが可能であるといえる。

学習の時間配当については課題解決学習を徹底させるには、家庭学習を含めて、かなり時間がかかるか、授業における指導計画に支障は少ないし、所謂系統学習と併用していけるし、重点的に単元を設定することも可能である。

しかし、問題点としては、課題解決学習を成功させるには、言わば指導要領の批判的な再構成、再検討が必要であり、教科書の内容配列等を思い切って組み変える必要がある。又、地理のあらゆる分野にわたって同じような形式での課題解決学習の適用は困難であり、特に高校人文地理においては、部門別の系統地理学の体系が教科内容にも導入されているから、その再編成、指導案作成上の問題はかなり多く残されているといわねばならない。

## IV 社会科社会の場合

中尾正三

### 1. はじめに

「課題解決学習」について総論で述べられたことは、社会科社会の学習についても適用できるし、地理や歴史の場合よりも重要な意味をもつと思われる。

政治・経済・社会の分野については、地理でとりあげた農村問題、歴史でとりあげた織豊政権での取扱いが、ある程度そのまま適用できるのではないか、と思われる。

しかし、高校における社会科社会の倫理的分野については、課題解決学習の方式を適用することが原理的には最も必要かつ重要であると思われるのに、現実にはまだそれ以前の段階でとまどわざるを得ないのである。地理や歴史の場合、すでに系統学習についても問題解決学習についても長い実践が積み重ねられているのに、倫理は、相当の波乱の後最近始められたばかりで、目下試行錯誤の域を出ていないように思われる。私にとっても今までの倫理の学習指導は不満足なものであった。38年度から改訂独立する倫理に対する態度を整理しておくためもあり、今年は倫理に焦点をしばって、課題解決学習の適用は来年度考えることにし

て、まずその前段階を整えることにした。

以下は、本年4月から今まで、高校2年生2クラスに対して行ってきた倫理の学習指導のこゝろもと、その成果についての実践報告である。種々の都合もあって、政治・経済の分野は他教師がうけもち、週一時間ずつ併行して行なった。

まず、①総論であげられた「社会科学習上の困難点」についてのアンケートと調査、②昨年度の倫理学習についての生徒の感想、③東京教育大附属高校の斉藤先生の今までの実践報告、④新しい高2の生徒の種々な調査（生徒の意識・知識・読書経験・人生観など）、⑤現行各社の社会科社会教科書の比較分析、をもとにしておおよそ次のような視点に立って実践をすゝめたいと考えた。

### 2. 基本的なねらい

#### (1) 生徒の実態

④ 人生観調査（次表1）にみられるように、生徒は、戦後の諸調査に共通にみられるような、やゝ消極的に自分の幸福を楽しもうとする傾向が多くみられる。